

令和8年7月21日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
静岡県立清水南高等学校中等部	静岡県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/shimizuminami-h/about/junior-high-school.html
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/shimizuminami-h/about/curriculum-daily-routine.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
https://www.edu.pref.shizuoka.jp/_files/00235105/R7-1.pdf	https://www.edu.pref.shizuoka.jp/_files/00235136/R7-2.pdf

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

・ 実施していない

<特記事項>

特別の教育課程の実施状況や取組の様子等について、学校ウェブページ等を通じて、保護者及び地域住民に広く情報提供を行っている。また、清水南高等学校中等部独自の教科「表現」で学んだことを生かし、文化祭では合唱を、表現発表会ではダンスやショークワイア、ミュージカル等の演目を披露している。文化祭は生徒と保護者、後援会や同窓会を対象に、表現発表会は保護者や後援会・同窓会を対象に、それぞれ公開した。公開に当たっては、例年チラシ・ポスター・ウェブページを通じて広く広報

し開催している。

なお、受検生を対象とした学校説明会やオープンスクールにおいても、「表現」の授業の様子や中等部生による学校紹介等を企画・実施している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

清水南高等学校中等部においては、「普通科と芸術科を併置した県立中高一貫校として、表現活動や探究活動および芸術教育を通じて高い知性と豊かな感性・表現力を備えたグローバル人材の育成を目指す。」ことをスクールミッションとしている。国際化社会に貢献する人材を育成するため、「表現」の授業を設けている。

令和7年度学校評価アンケートでは、約95%以上の生徒が「表現力や協調性が身に付いた」と回答し、特別の教育課程は生徒の成長に寄与していることが窺える。

しかし、講師・会場の確保は引き続き課題であり、決められた授業時数内で満足できる作品をつくるための計画・準備の充実が必要である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「表現」の授業では自分の思い、考え、感情等を伸びやかに表現する力と他者と豊かに関わる資質・能力を育成している。そのために、以下の3点を教科の目標として設定し、取り組んでいる。

ア 表現の実践を通して、表現することの楽しさや喜びを味わい、意図に応じた表現方法について理解するとともに、表現に必要な技能を身に付けるようにする。

イ 表現を創意工夫することや、自己の課題を発見し、合理的に解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

ウ 主体的・協働的に表現の学習に取り組み、表現活動の楽しさを体験することを通して互いに協力し、自己の役割を果たす態度を養う。

授業や発表を通して、多くの生徒が自分の考えを積極的に発信できるようになっており、授業外でも発表・交流の機会を楽しむ姿勢が見られる。

ジェネリックスキル評価テストでは親和性・協働性に優れた結果が出ている一方で、課題発見力や計画立案力に課題があり、今後は協働での課題意識共有と計画的な実践力向上を図る取組を進めていく。

4. 課題の改善のための取組の方向性

今後も「表現」の授業および発表会を継続し、授業計画や発表会の運営方法の改善を進める。

中等部の「表現」と高校の「探究と表現」との系統的な連携を図り、生徒の表現力・探究力の一層の向上を目指す。